

JOMF 派遣医師便り (2020.01)

◆シンガポール◆

高齢化社会に備えるプライマリケア

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

今回は、シンガポールのプライマリケアについて考えてみたい。イギリス流の家庭医専門医制度が根幹にあるシンガポールでは、患者さんが最初に訪れるのはプライマリケアのクリニックである。専門医ではない。プライマリケアの役割はあらゆる患者さんのあらゆる訴えに対応することである。急性の上気道炎などはもちろん、糖尿病などの慢性病のマネージメント、健診など予防的な医療も行う。また、専門医への紹介や様々な医療システムへのよきつなぎ役という役目も大切である。

シンガポールにおいては、プライマリケアは政府系の病院が管轄するポリクリニック 22 箇所および一般医のクリニック（約 1,700 施設）によって行われている。これらによってプライマリケアの 80%の需要を満たしている。残り 20%は病院の救急外来が担っている。

シンガポール保健省は 2010 年に community health centers (CHCS) を国中に数箇所設け、一般医がよりよく慢性疾患などの患者さんを診ていく手助けをしている。また、2013 年から島内に 8 箇所、Family Medicine Clinics が設けられた。これは、多数の医師、看護師、コメディカルスタッフが協力して包括的な患者ケアを行う施設である。さらに、これに加えて MOH は Primary Care Networks を創設した。これは、医師、看護師、プライマリケアコーディネーターなどが協力してチームとして包括的ケアを行う仕組みである。

包括的ケアでは、糖尿病患者さんの足や目のチェック、食事やライフスタイルのカウンセリングなども行われる。これはこうしたケアを病院から地域コミュニティに移すという MOH の意向を反映している。シンガポールでは、2017 年には 65 歳以上人口は 7 人に 1 人であったが、2030 年には 4 人に 1 人になると推計され、急速に高齢化が進んでいく。こうした中、病院への負担を減らし、地域コミュニティで行えることは行っていくというシステムを構築、展開していつている。高齢化先進国の動向を観察した結果、考え出された方策であろうと思われる